

参考資料編

1. 計画策定までの経緯

1) 経緯

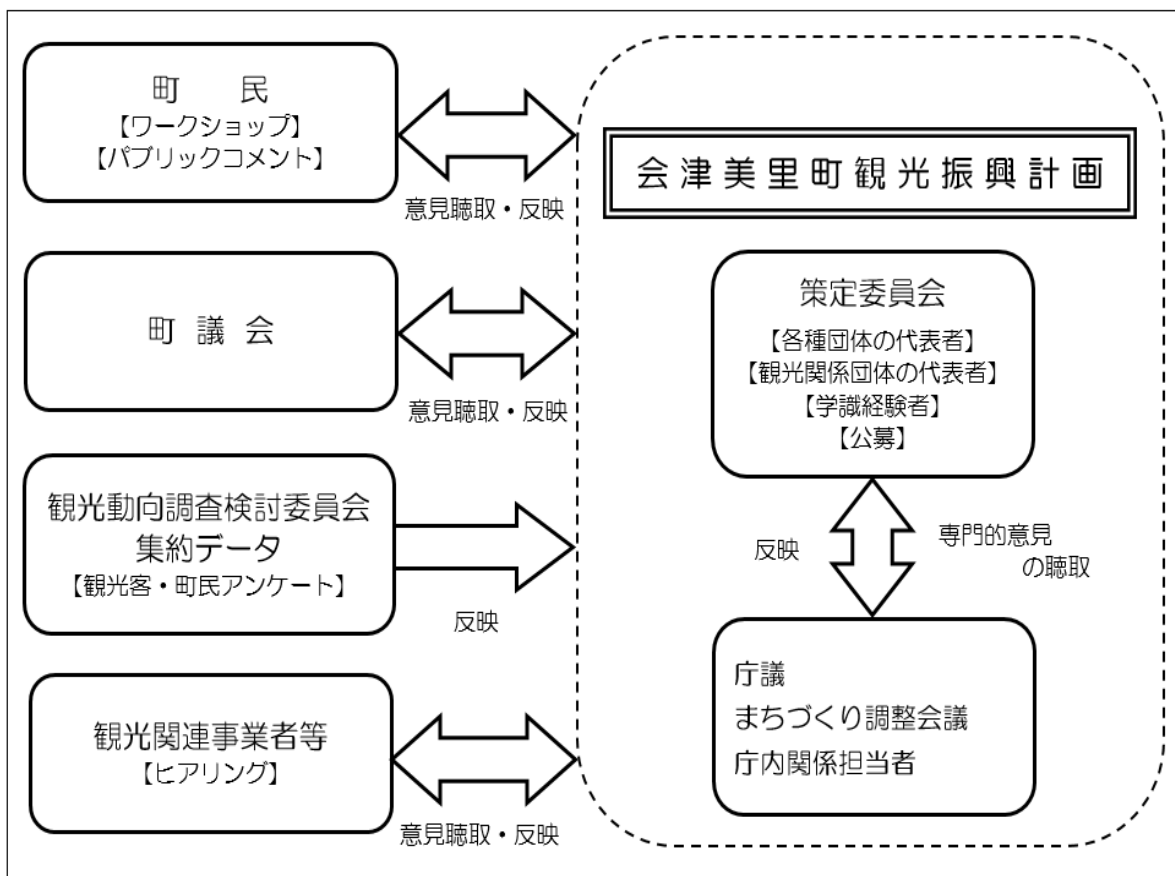
平成 26 年度は、「会津美里町観光動向調査検討委員会」を 3 回開催し、観光客を対象としたアンケート調査及び調査研修（視察）を実施し、その結果を踏まえ、町の観光振興に関する意見としてとりまとめた。

平成 27 年度は、「会津美里町観光振興計画策定委員会」を 5 回開催し、町民ワークショップやパブリックコメントによる町民意見を踏まえ、計画を策定した。

年 度	月	内 容
平成 26 年度	5 月	第 1 回会津美里町観光動向調査検討委員会
	11 月	会津美里町観光動向調査研修 長野県小布施・飯山
	12 月	第 2 回会津美里町観光動向調査検討委員会
	3 月	第 3 回会津美里町観光動向調査検討委員会
	3 月	会津美里町観光動向調査検討委員会より、最終意見取りまとめの報告
平成 27 年度	6 月	第 1 回会津美里町観光振興計画策定委員会
	8 月	第 2 回会津美里町観光振興計画策定委員会
	10 月	第 3 回会津美里町観光振興計画策定委員会
	11 月	会津美里町観光振興計画町民ワークショップ
	11 月	第 4 回会津美里町観光振興計画策定委員会
	12 月	庁議において計画素案決定
	12 月	会津美里町産業建設常任委員会へ計画素案の説明
	12～1 月	パブリックコメント（意見公募）の実施
	1 月	第 5 回会津美里町観光振興計画策定委員会
	2 月	会津美里町観光振興計画策定委員会より、計画原案の報告
	2 月	会津美里町観光振興計画の決定

2) 検討体制

本計画は、各種団体及び観光関係団体の代表者、学識経験者、公募からなる「会津美里町観光振興計画策定委員会」において検討し、庁内関係者と連携を取りながら策定した。策定段階においては、ワークショップ、パブリックコメントによる町民意見や、ヒヤリングによる観光関連事業者等の意向を把握・反映するとともに、平成26年度の観光動向調査結果や町議会の意向を反映した。



2. 町民ワークショップの開催概要

■開催概要

開催日時	平成 27 年 11 月 6 日（金）19：00～21：30
開催場所	会津美里町役場（本郷庁舎）2階 ふれあいセンター
参加人数	50 名（男性 32 名、女性 18 名）
テーマ	会津美里町への観光客を増やすために何ができるか、必要か？
アドバイザー	石原直氏（策定委員会委員長）、小泉大輔氏（策定委員）
ワークショップの進行方法	<ul style="list-style-type: none"> ・A～Eの5つの班に分かれて、上記テーマについて意見を出し合った。 ・前半では、「観光客を増やし、町にお金を落としてもらうために、町の資源を使って、誰に向けて何ができるか」をテーマに自由にアイデアを出し合った。その中から、特に重要・面白いと思うアイデアを各班で2件選定した。 ・後半は、選定した2つのアイデアについて、「実現するには何をしたらよいか」を議論した。 ・最後に、各班代表が後半の議論を発表し、アドバイザーに講評を頂いた。

■各班の議論の概要

各班の後半の議論の概要について、各班の発表をもとに整理した。

A班

・A班では、町の産品を販売する直売所と、会津本郷焼体験について議論した。

タイトル	菜の花の油等の加工品の直売所
概要	・販売拠点で特産品を売る
どこで	<ul style="list-style-type: none"> ・車が止められる場所 ・役場の前
誰に向けて	・女性
誰がやる	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者 ・商工会
具体的な内容（実現に必要なこと等）	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点を つくる ・軽トラ市 ・家族で過ごせるスペースをつくる

タイトル	会津本郷焼を体験する
概要	・同上
どこで	・窯元
誰に向けて	・女性

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の学校の児童・生徒 ・ 県外からの修学旅行生
誰がやる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼物組合（窯元）と町民がコラボレーションすることにより相乗効果を図っていききたい。
具体的な内容（実現に必要なこと等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周知徹底するために、フリーペーパー等でPRする。 ・ SNSで広める。 ・ 旅館等で前日に予約できるような体制を整える。



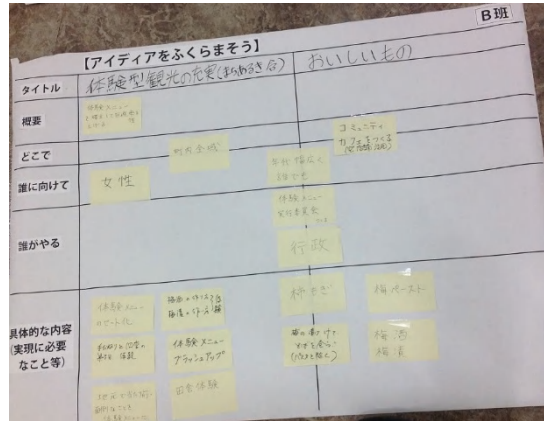
タイトル	まちあるき「アイデアをふくらまそう」	町民の体験	A班
概要	観光拠点と特産品を売る	会津若狭焼物を体験	
どこで	まちあるき 町内全域	かまどと女性向け	
誰に向けて	女性	児童生徒（学校） 修学旅行	
誰がやる	生産者 商工会	焼物組合 町民	
具体的な内容（実現に必要なこと等）	観光拠点 観光ラフ	客観データに基づいたPR	フリーペーパー SNSでPR 旅館と前日の予約

B班

- ・ B班では、「体験型観光の充実（まちあるき含む）」と「おいしいもの（お土産含む）」を選定したが、最終的には合わせて議論した。

タイトル	体験型観光の充実（まちあるき含む）＋おいしいもの（お土産含む）
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験メニューをつくり、まちなかの回遊性を上げる。
どこで	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内全域 ・ コミュニティカフェをつくる（空き店舗を活用して）
誰に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光は女性が主導権を握るものなので、女性にとって魅力があるようなメニューを作り売り出していく。
誰がやる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政では自由にできないことが多々あるので、一貫性を持たせるために実行委員会を立ち上げ実施する。
具体的な内容（実現に必要なこと等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高田梅、みしらず柿等の特産品を体験型観光に活かす。例えば、梅酒や梅漬けを実際に作って頂き、お土産として持って帰ってもらう。 ・ 地元では当たり前で面倒な草むしりや雪掻きなど、四季折々の生活文化の体験をコンセプトにしてはどうか。都会の人にとっては非日常的な体験である。 <p><以下、その他の付せんの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験メニューのセット化、ブラッシュアップ ・ 手びねりと四季の〇〇体験 ・ 田舎体験 ・ 柿もぎ

	<ul style="list-style-type: none"> ・梅ペースト ・梅の漬け汁でそばを食う（パスタを除く）
--	--



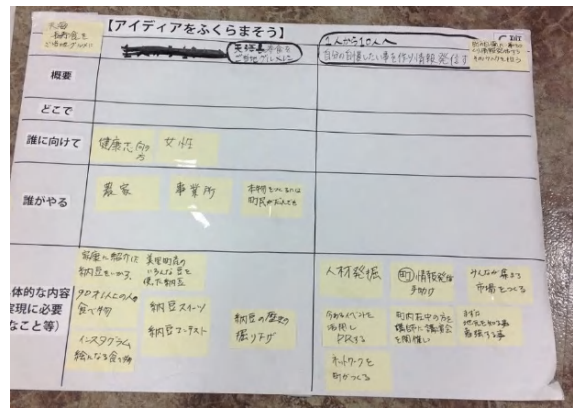
C班

・C班では、ご当地グルメとしての天海長寿食と町民参加型の情報発信について議論した。

タイトル	天海長寿食をご当地グルメに
概要	・現状では食べるものがないので。
どこで	—
誰に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・健康志向の方 ・女性 ・高齢者
誰がやる	—
具体的な内容(実現に必要なこと等)	<ul style="list-style-type: none"> ・天海さんが徳川家康に不老長寿の料理として納豆を出したというエピソードがあるので、納豆を掘り下げてはどうか。 ・納豆コンテスト、納豆スイーツ等。 ・農家や町民みんなが作れるような形で、納豆にスポットあてて、天海をキーワードにご当地グルメを作ってはどうか。 ・SNSではインスタグラムなど写真付きで拡散されていくので、絵になる食べ物、ビジュアルを大事にしていく必要がある。 <p><以下、その他の付せんの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・会津美里町産のいろんな豆を使った納豆。 ・90歳以上の人の食べ物 ・納豆の歴史の掘り下げ

タイトル	1人から10人へ。自分の自慢したい事を作り情報発信する。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの方の興味はそれぞれバラバラなので、これらを1つにまとめて観光として掘り下げていくことは難しいことである。 ・1つのイベントに1万人を集めるのではなく、町民のうち1000人くらいの方が情報発信して、1人10人ずつ集めて1万人を呼ぶような

	仕組みが作れないか。
どこで	—
誰に向けて	—
誰がやる	(下記に個別に記載)
具体的な内容 (実現に必要なこと等)	<ul style="list-style-type: none"> • 地元の魅力を考えている1000人を町が見つかる、掘り起こす。 • SNSが不得意な方にスポットを当てて、町が情報発信する。 • みんな集まる市場(会津美里町にどのような人がいるのか見ることができるところ)を作る。例えば、ホームページ上で、ある人をクリックすると、その方の活動や主催するイベント等を見ることができる。 • 今あるイベントを活用しPRする。会津美里町のウォーキング大会に参加した一部の方にちらしを配った結果、他の地域のウォーキングイベントにつながったということがあった。 • 町内在住の方を講師に講演会を開催し、地元の魅力を共有する。某ホテルでは、このような講演会を開催し成功しているという。 • 地元を知る勉強会を実施する。 • それぞれの情報共有の場(ネットワーク)を町がいかに作るかが今後重要である。



D班

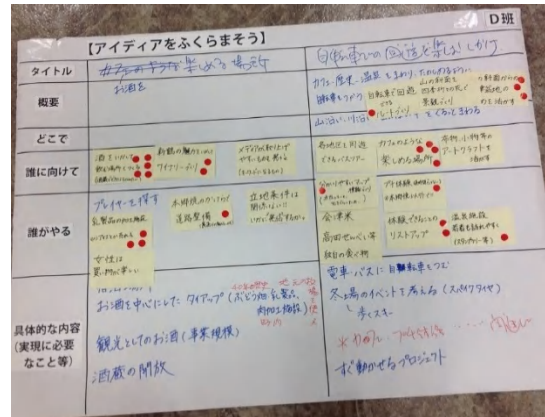
- D班では、町内にある自然や歴史、食べ物が美味しいこと、空気が美味しいこと、このような所に住んでいることを発信していけばよいのではないかと意見が出て、その結果を2つのアイデアにまとめた。

タイトル	お酒を楽しめる場所
概要	<ul style="list-style-type: none"> • 町内にある酒蔵を活かして飲む場所を作る。 • 40年の歴史を有するぶどう畑があるが、さらにワイナリーがあったら、もっと素敵なのではないか。そして、ワインを飲ませるだけでなく、町で加工する肉や乳製品を販売する等、つなげていくことできるのではないか。さらに発展して、会津本郷焼を使ったり、女性が買物できる場所を作っても良い。

どこで	—
誰に向けて	—
誰がやる	・プレイヤーを探す
具体的な内容（実現に必要なこと等）	<ul style="list-style-type: none"> ・泊まる場所がないのが課題である。 ・ぶどう畑、地元牧場の乳製品（例えばアイスは売れる）、加工肉などがタイアップする。 ・地元の新聞記者に情報提供して発信してもらう。 <p><以下、その他の付せんの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアが取り上げやすいものを発信（キーワードになるもの）。 ・会津本郷焼のかけらで道路整備。 ・立地条件は関係ない。いかに発信するか。 ・観光としてのお酒。

タイトル	自転車での回遊を楽しむしかけ
概要	・山の景観、夜景、川、紅葉等町の自然の素晴らしさに関する意見がたくさん出たが、これらを取りまとめる方法として、今愛好家が増えているサイクリングを取り入れたらよいのではないか。自転車で回遊する中に、カフェ、歴史スポット、温泉等がある。
どこで	・山沿い、川沿い、田んぼの中を回れるようなコースを設定する。
誰に向けて	—
誰がやる	—
具体的な内容（実現に必要なこと等）	<ul style="list-style-type: none"> ・女性が好きなカフェがあると良い。 ・町民も知らない歴史もたくさんあるので、もっと知って頂けるようなガイドマップをつくる等の努力も必要である。 ・温泉は地元だけでなく、観光客が満足できるような温泉を作る。若者も訪れやすい温泉施設（スタンプラリー）。 ・そのためには行政によるサイン整備も必要である。現在も案内板は設置されているが、分かりにくい。 ・何かの体験をしたいニーズが女性にはある。まず、1回でできるプチ体験があり、次にリピーターで再び来訪して出来たものを持って帰るなど、幅広い体験メニューを検討していく必要がある。会津本郷焼以外で、町内で体験できることのリストアップ。 ・会津米をつかったメニューや高田せんべいなどの特産品など、自転車で巡りながら、独自の美味しい食べ物を食べることができたら、とても楽しいのではないか。 ・サイクリングの場合、冬場はどうするのかとの意見が付きものだが、冬場なりの楽しみ方を考えれば良い。マイナス面をプラスに考えていけば、幅広い観光が実現できるのではないか。歩くスキーやスパイクタイ

	<p>やなど。</p> <ul style="list-style-type: none"> サイクリングに必要となる道路や河川敷はすでに町内にあるので、すぐに動かすことができるプロジェクトではないか。 <p><以下、その他の付せんの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 山の斜面を四季折々の花で景観づくり 布物、小物等のアートクラフトを活かす。 電車やバスに自転車を積む。
--	---

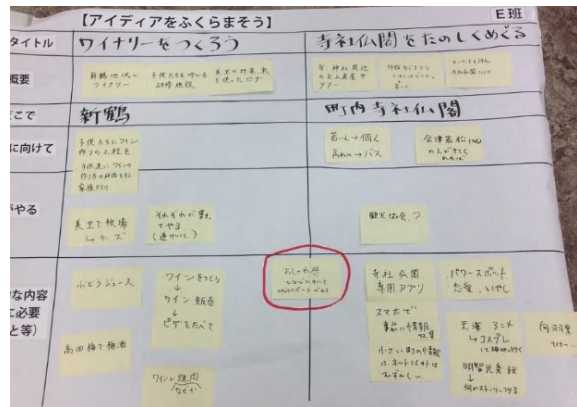


E 班

- E班では、ワイナリーを中心とした観光拠点づくりと、寺社仏閣を楽しく巡るアイデアについて議論した。

タイトル	ワイナリーをつくろう
概要	<ul style="list-style-type: none"> 新鶴地域にワイナリーを作る。 子どもを呼べる研修施設を作る。 会津美里産の野菜や米を使ったピザ等を提供する場を作る。
どこで	<ul style="list-style-type: none"> 新鶴地域
誰に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行等で子どもたちに来てもらい、ワインづくりの行程を学習する。 また、その子どもたちの親に向けて情報発信してはどうか。
誰がやる	<ul style="list-style-type: none"> 実際に、町内でワイナリーをつくろうという動きがある。 町内の牧場がチーズを提供する。そのチーズを食べながらワインを楽しめたら良い。
具体的な内容 (実現に必要なこと等)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが来るので、ワインだけでなく、ぶどうジュース等子どもが楽しめるものも作る。 また、ぶどうだけではなく、会津美里産のりんごジュースや高田梅の梅酒等を作ってはどうか。 町内は「おしゃれ感」がない。鄙びたなかにも、きらっと光る雅なものがあると良い。ワイン祭りはなぜか焼肉でおしゃれ感がない。

タイトル	寺社仏閣を楽しく巡る
概要	<ul style="list-style-type: none"> 寺社仏閣周辺を土産物店等により活気づける。 体験型メニューを取り入れる。 キーワードを作る。
どこで	・三十三観音を中心とした町内の寺社仏閣
誰に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 若い人は個人 高齢者はバス・団体で 会津若松市にきた観光客が会津美里町にも来てくれれば良い
誰がやる	・観光協会
具体的な内容(実現に必要なこと等)	<ul style="list-style-type: none"> 寺社仏閣専用アプリの整備。若者はパンフレットも見ずに、スマートフォンで事前に調べて観光する。また、小さな町の情報はネット以外では入手しにくい。 寺社仏閣にQRコードを設置し、これにより、各寺社仏閣の由緒やご利益等の情報を提供する。 パワースポット、恋愛、癒しを求めて、寺社仏閣を訪れる若者も多い。 若い人には、コスプレ好きや時代物が好きな人がいるが、このようなアニメ好きの人に向けた企画を検討する。コスプレをしてゆかりのある寺社仏閣を訪れる人もいる。 <p><以下、その他の付せんの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 天海はアニメの方が有名。 天海を活かすには何かストーリーが必要。例えば、天海＝明智光秀説等。 向羽黒山城の歴史は現時点ではマイナーである。



3. 委員名簿

1) 平成 26 年度 会津美里町観光動向調査検討委員会 (敬称略)

役 職	氏 名	所 属
委員長	石原 直	特定非営利活動法人観光情報流通機構理事長 目白大学客員教授
委 員	遠藤 秀一	会津美里町観光協会調査研究開発委員長
	小泉 大輔	福島県立テクノアカデミー会津 職業能力開発短期 大学校 観光プロデュース学科 副教務主任
	小林 清一	会津美里町観光協会調査研究開発副委員長
	星野 幸子	会津美里町商工会理事 (女性部長)
	高梨 宣浩	株式会社会津美里振興公社取締役総合管理部長
	鈴木 裕	株式会社アールエイチ企画営業部長
	金田 浩司	梅林タクシー有限会社代表取締役
	五十嵐賢次	特定非営利活動法人あいづ関山倶楽部代表

2) 平成 27 年度 会津美里町観光振興計画策定委員会 (敬称略)

役 職	氏 名	所 属
委員長	石原 直	特定非営利活動法人観光情報流通機構理事長 目白大学客員教授
委 員	小泉 大輔	福島県立テクノアカデミー会津 職業能力開発短期 大学校 観光プロデュース学科 副教務主任
	村松 尚	会津美里町観光協会理事
	星野 幸子	会津美里町商工会理事 (女性部長)
	高梨 宣浩	株式会社会津美里振興公社取締役総合管理部長
	鈴木 裕	株式会社アールエイチ企画営業部長
	小林章太郎	株式会社三番山下代表取締役 Café& marché Hattando マネージャー
	長谷川洋一	会津美里町宿泊事業者連絡会会長 (公募)
事務局	阿部 正寿	会津美里町商工観光課長
	鈴木 國人	会津美里町商工観光課長補佐
	立川 昇	会津美里町商工観光課商工観光係長
	川田 浩泰	会津美里町商工観光課商工観光係 主任主査
	横山美代子	会津美里町商工観光課商工観光係 主任主査
	堀越 勇	会津美里町商工観光課商工観光係 主事
	須原 庸次	株式会社コムテック地域工学研究所代表取締役
	小浦 洋生	株式会社コムテック地域工学研究所
	脇門 裕子	株式会社コムテック地域工学研究所